

入社して三年、あれこれ考えて退職した時は、周りからは「もったいない！」と言われました。今ではそんなこともなくなりましたが、独立する前は「惜しいことをしたなあ」とずいぶん後悔しました。あのまま、ずっと勤めていればよかったかな……なんて思っただけで。それも若気の至りでした。

入社して三年、あれこれ考えて退職した時は、周りからは「もったいない！」と言われました。今ではそんなこともなくなりましたが、独立する前は「惜しいことをしたなあ」とずいぶん後悔しました。あのまま、ずっと勤めていればよかったかな……なんて思っただけで。それも若気の至りでした。

生まれ育ちは熊本なのですが、私の兄が名古屋の大学に通っていました。初めて遊びに行った時には、それはもう驚きました。名古屋がとんでもない大都会に見えたんです。これはすごいな、こんなところで暮らしてみたいなとすぐに思いました。その頃の私は田舎者でしたし、若くもありましたから。ですから高校を出たら県外に行こう、都会で就職しようずっと考えていました。

安定した勤務先を三年で退職、しばしの後悔を味わう

恩は恩で返す

本田 和寛

株式会社エナジー 代表取締役社長

PROFILE

本田 和寛 (ほんだ かずひろ)

1980年、熊本県出身。高校卒業後、愛知県豊田市のトヨタ自動車に入社。工場勤務を3年間続けたのち、退社。プロボクサーを目指して鍛錬に励むかわら、複数の仕事をこなす。プロテスト合格後は介護職との二足の草鞋を履く生活。プロ引退後、介護業に専念するべく独立開業。筋トレと文化史跡巡りが趣味。

INFO.

株式会社エナジー

〒451-0041 愛知県名古屋市西区幅下1-10-27

TEL 052-485-9991

■ <http://energycare.co.jp/>

■ kazuhiro_honda@energycare.co.jp

■ 2010年2月設立

ボクシングと並行して続けた介護の仕事

高校までは野球をやっていたんですが、いつもどこかに「格闘技をやりたい」という気持ちがありました。なぜかは分からないのですが、強い者への憧れでしょうか。ところがトヨタに入社してみたらクラブ活動が盛んで、柔道部や剣道部に始まって、格闘技のクラブ活動もある。そこでボクシングを選んで、アマチュアとして練習に励んでいました。ところがいつの頃からか、プロを目指すようになってしまった。実はトヨタを辞めた理由のひとつが、これだったんです。その後はさまざまな仕事をしながらジムに通い、身体を作っていきました。初めて介護の仕事を知ったのも、この頃です。プロテストに合格してから介護の仕事一本に絞り、経験を積みました。昼間の仕事を終わるとジムで鍛え、時々試合が入る。プロボクサーを引退するまで、そうした生活が続いていました。

「ありがとう」の言葉ひとつが、介護を続けられる理由

介護の仕事をずっと続けてこられたというのは、それだけのやりがいがあるからだと思います。それはこの業界に身を置く者なら、誰もがうなづくことだと思います。

自分が少しでも気配りをして、体を動かして人の世話をする。すると相手からは「ありがとう」という言葉が返ってくる。それがどれほど嬉しいものか、この仕事をしていると本当に実感できます。

私が介護業界に入った頃は今と違って、制度やルールがまだまだ貧弱だった時代です。世間では、「3K（きつい・きたない・危険）」のイメージをもたれてましたし、給料は手取りで十二万円程度ですから、食べていくだけで精一杯。結婚なんて無理だと、諦めていました。それでも、高齢化社会が進めば、重要性は増していくばかりだ……という見通しがあったために法整備が進み、ここ十年ほどで就労環境も整えられて、現場の担い手も増えていくようになりました。

私自身はデザイナーで一年半、その後はホームヘルパーとして六年ほど勤務していました。そしてプロボクサーを引退するにあたって、独立開業に向けて動き始めました。

本物のサービスができる施設だけが生き残る

介護というのは、究極のサービス業だと思っています。

そもそも公的保険がベースにありますから、業務の内容がピシッと決められています。

業務としてできることとできないことが明確ですし、それに対する料金も、法令で決められている。たとえば入浴の介助を一時間行くと、その対価はだいたい四千円。これは東京でも北海道でも、ベテランがやっても新人がやっても同じなんです。つまり、他の施設との差別化というものがしにくい。じゃあ、どうするか。

その時に必要になるのが「より良いサービス」なんです。単純に作業としてこなすのではなく、礼儀作法から始まって、誠心誠意、相手に奉仕する姿勢で手厚いサービスを提供していく。そうした面で介護施設が評価される時代は、遠からず必ずやって来ると思っています。少子高齢化はまだまだ進んでいきますし、景気の回復がこれだけ鈍いと、介護保険の財源も先細りするばかりでしょう。となれば、介護報酬が改正されるとしたら、下がる可能性が高いと思います。その中で、高齢者や障がい者の方々を私たちがどのように支援していけるのか。それを真剣に考えなくてはならないし、それ以前に自分たちの施設が生き残っていかなくてはなりません。

そのためには、本物のサービスを提供していかなくては。それができない施設は、どんどん淘汰されていってしまうでしょう。

より多くの笑顔を保元気を広げたい

最初に始めた事業は訪問介護でした。仲間と一緒に三人で。もう十年にもなりますね……。その間、ずいぶん多くの方々に助けをいただきながら、成長していくことができました。

現在のところ、デイサービスが三ヶ所、老人ホームが六ヶ所、障がい者グループホームが三ヶ所。他に訪問介護・看護、支援事業所も運営しています。他の事業者さんと比べたら、拡大のスピードは速いかも知れません。

私自身は、社長然として偉そうにするのが苦手ですし、また現場上がりなので、とにかく職員が働きやすい環境を心がけています。できる限り各施設に足を運び、職員や利用者の方々と顔を合わせるようにしています。やはり笑顔と元気は大切だなと感じますし、皆さんがいつも笑顔でいられるといいな、と思います。

経営者としていえば、さらに手を広げて規模を拡大していきます。私たちがもっと成長できれば、より多くの高齢者や障がい者の方々を笑顔に、元気にすることができると信じています。そのためにも、地域で最も信頼されるナンバーワンを目指していきます。